『旧和田岬灯台』～現存する最古の鉄骨造灯台～

神戸市文化スポーツ局文化財課

◇旧和田岬灯台の変遷◇

◎明治４年(1871) 和田岬に建設(竣工)
　明治５年(1872) 初点灯
　木造・3層・白色・八角形
◎明治17年(1884) 改築
　鉄骨造・3層・白色・六角形
●昭和38年(1963) 廃灯　現在地に移設
◎平成10年(1998) 国登録有形文化財に登録

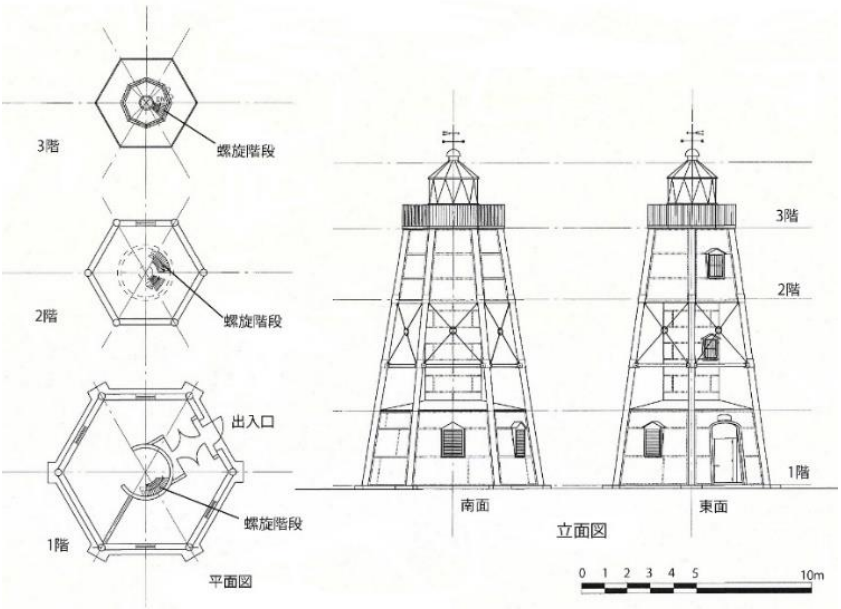
旧和田岬灯台の歴史

慶応3年(1867)4月に、江戸幕府は、兵庫開港に備えて、外国船の夜間航行の安全を確保するため、イギリスとの間で、大坂約定(おおさかやくじょう)を結びました。

その中で、関門海峡(かんもんかいきょう)から大阪湾内に計5か所の灯台[部埼(へさき)(北九州市)・六連島(むつれじま)(下関市)・和田岬(神戸市)・江崎(えさき)(淡路市)・友ヶ島(ともがしま)(和歌山市)]を設置することを決定し、明治維新後、灯台建設は、明治政府に引き継がれることとなりました。

初代の和田岬灯台は、明治3年(1870)1月に建設が始まり、明治4年4月に完成しました。八角形木造の3層構造で、外面は白色に塗装されていました。明治5年1月に初点灯しています。

しかし、木造灯台は、耐久性に乏しく、火災の危険性もあるため、明治17年(1844)3月鉄製灯台に改築されています。その際に、六角形鉄骨造の3層構造に改築し、灯光はガス灯に変更されました。



○鉄骨造灯台の大きさ

1層・・・・・・・・・・・・・・・・一辺:約3.9m
2層(階段室)・・・・・・・・直径:約2.4m
3層・・・・・・・・・・・・・・・・一辺:約2.5m
灯籠・・・・・・・・・・・・・・・・一辺:約0.9m
地上から塔頂の高さ　・・・・約15.75m
灯光の高さ・・・・・・・・・・・・・・約13.9m

旧和田岬灯台と「日本灯台の父」ブラントン

初代の旧和田岬灯台は、イギリス人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンの指導により建設されました。

ブラントンは、日本に滞在した明治元年（1868）～明治9年（1876）の間に、日本各地で灯台建設や日本人灯台守（とうだいもり）の養成、灯台の保守システムづくりに貢献し、『日本灯台の父』と呼ばれています。

入口の記念額（右から縦に2文字ずつ読みます。）

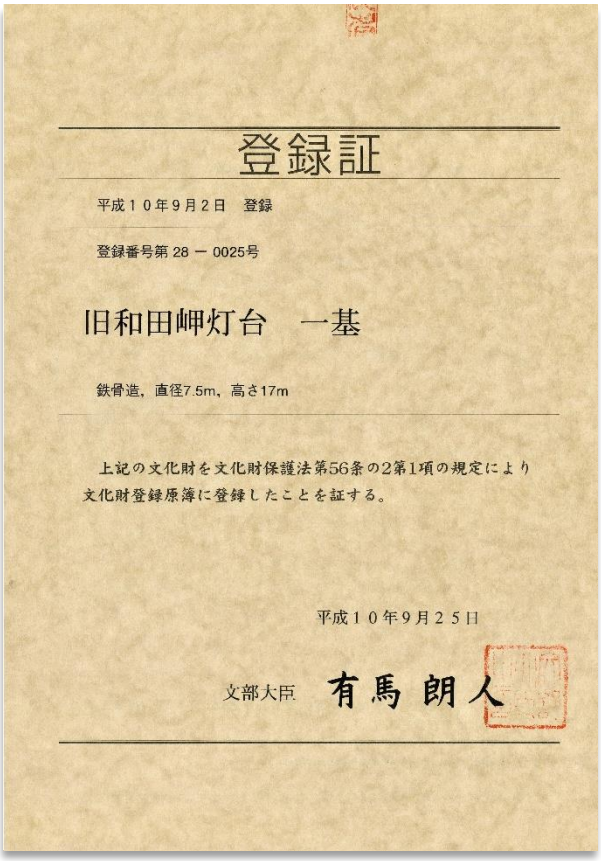
「明治/五年/一月/二九/日初/点燈/於舊/臺一/七年/三月/一日/再点/燈於/新臺」

訳：明治5年1月29日、旧（灯）台において初点灯、
（明治）17年3月1日、新（灯）台において再点灯

旧和田岬灯台の移り変わり

旧和田岬灯台は、昭和38年（1963）10月、和田岬周辺の埋め立てに伴い現在の和田岬灯台が新設されたため、灯台としての役割を終え、現在地に移設されました。

移設後は、「須磨の赤灯台」の愛称でも親しまれ、平成10年（1998）には、国登録有形文化財に登録されました。



登録証

平成１０年９月２日　登録

登録番号第 28 ー 0025号

旧和田岬灯台　一基

鉄骨造，直径7.5m，高さ17m

上記の文化財を文化財保護法第56条の2第1項の規定により文化財登録原簿に登録したことを証する。

平成１０年９月２５日

文部大臣　有馬 朗人

国登録有形文化財の登録証

大正時代の旧和田岬灯台
（『神戸市史』ガラス乾板写真）

旧和田岬灯台の設備

最上部の灯籠（とうろう）には、灯火に使用したフレネル式レンズが一部残されています。

フレネル式レンズとは、フランス人物理学者オーギュスタン・ジャン・フレネルによって発明されたレンズで、のこぎり形の断面形をしており、光源からの光を、水平方向に遠く届けることができます。

旧和田岬灯台のレンズの台座部分には、[CHANCE BROTHER＆C. NEAR BIRMINGHAM 1870]と、刻印が残っており、イギリスのバーミンガム近郊にあった「チャンス兄弟商会」が、初代の和田岬灯台の建設が開始された明治3年（1870）に製造したことがわかります。

現在の灯台内部写真

左：1 層内部から上を見上げた状況　中央：2 層（階段室）　右：3層（灯籠の出入り口）